

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会（資料配付）
2. 国土交通省建設専門誌記者会（資料配付）
日時：平成29年 1月16日14：00同時配付



平成29年 1月16日
国立研究開発法人土木研究所

東日本大震災等の地震でも壊れない道路橋の研究開発状況を公開

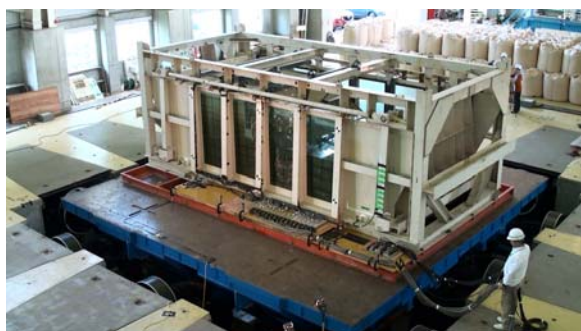
土木研究所は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究プロジェクト「レジリエントな防災・減災機能の強化」に参画しています。同プロジェクトでは、「災害の早い察知（予測）」、「災害に対する事前準備（予防）」、「災害時の迅速な対応（対応）」に関する研究開発が展開されています。

その中で、土木研究所では、道路橋等に利用できる液状化対策技術の研究開発を行っており、このたび対策技術を検証するための大型振動台実験を行いますので、下記のとおり報道関係者の皆様に公開します。

本研究を通じて、東日本大震災等の地震による道路橋の災害を予防するための技術を開発する予定です。

1. 日 時 平成29年 1月19日（木）13：15～14：50（予定）
2. 場 所 （国研）土木研究所 振動実験施設（茨城県つくば市南原1-6）
3. 実験概要 別紙のとおり
4. 対 象 報道機関

取材を希望される報道機関の方は、前日までにメールまたはファックスで申し込みをしてください。



振動台実験の状況

問い合わせ先

国立研究開発法人土木研究所
構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ
上席研究員 大住 道生
研究員 谷本 俊輔

TEL 029-879-6773

FAX 029-879-6739

e-mail caesar@pwri.go.jp

液状化地盤上の道路橋の耐震補強に関する大型振動台実験

1. 技術の概要

「鋼管矢板壁（側面一体型）補強」は、建設年次が古く、液状化の影響を考慮していない時代に設計された道路橋の橋台に対して、杭基礎の側面に鋼管矢板壁を設けることにより、地震時の液状化によって発生する流動力に対する杭基礎の変形を抑制する効果を期待した耐震補強技術です。

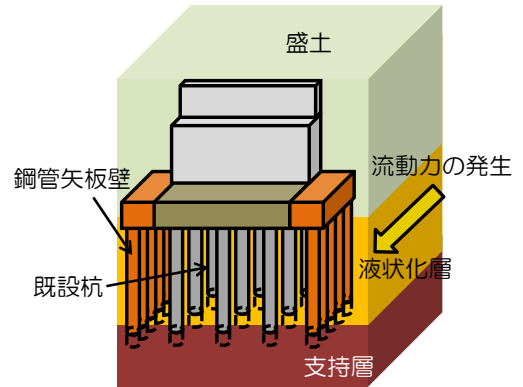


図-1 鋼管矢板壁（側面一体型）補強

2. 実験概要

大型振動台と大型剛土槽（幅 6m×奥行き 3m×高さ 2m、いずれも内寸）を使用して、土槽内に実物の 1/10 相当の模型を作製します。模型に対して東日本大震災の揺れに相当する振動を加え、液状化現象を発生させます。

以前に実施した液状化の影響を考慮していない時代に設計された道路橋の橋台の実験結果と比較して、対策効果をご覧いただきます。



写真-1 大型振動台と大型剛土槽

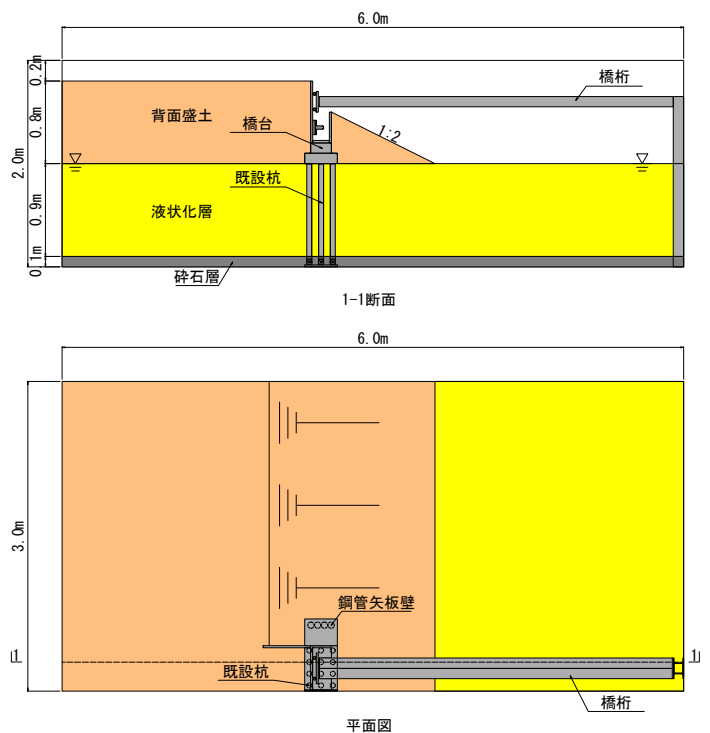


図-2 模型概要図

3. 日時

平成29年1月19日（木） 13:15～14:50（予定）

- 13:15 集合
- 13:20 事前説明会
- 13:35 加振
- 13:50 模型観察
- 14:20 事後説明会
- 14:50 解散

4. 場所

（国研）土木研究所 振動実験施設（茨城県つくば市南原1-6）
正門横の守衛所で受付後、振動実験施設まで直接お越しください。

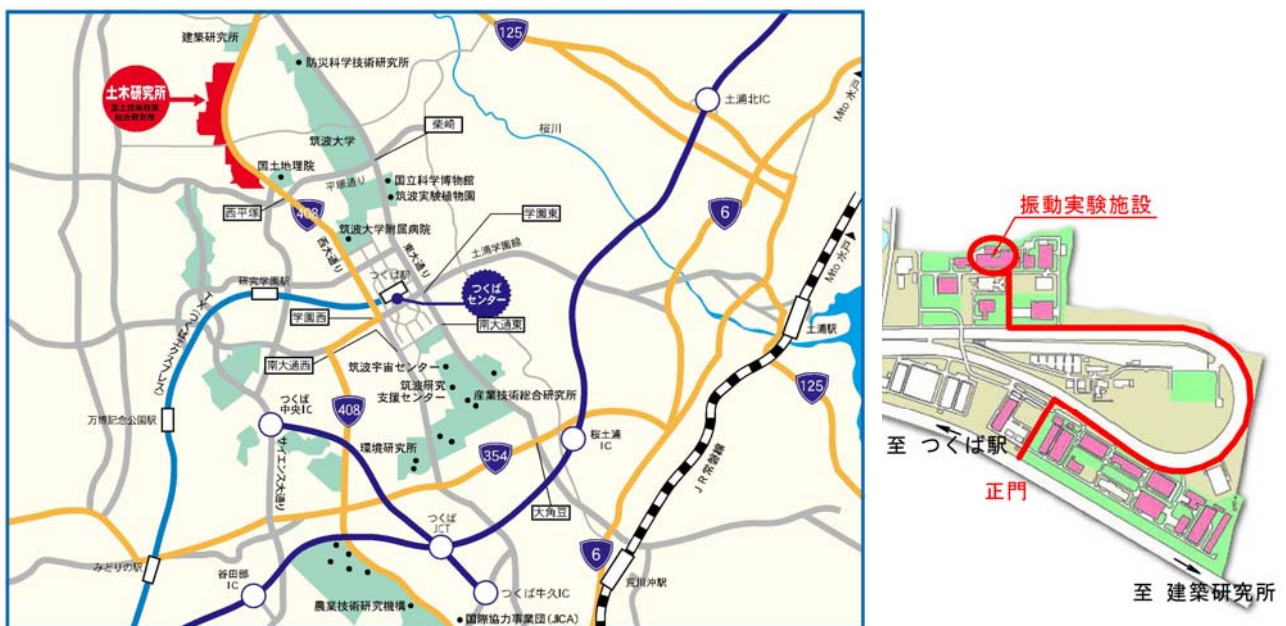


図-3 土木研究所 振動実験施設 案内図

土木研究所構造物メンテナンス研究センターでは、総合科学技術・イノベーション会議の SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「レジリエントな防災・減災機能の強化」（管理法人：JST）に参画しています。その中で、港湾空港技術研究所、総務省消防庁消防研究センターとの連携の下、「大規模実証実験等に基づく液状化対策技術の研究開発」を平成26年度から5カ年の計画で実施しています。

- ・ SIP についてはこちら → URL : <http://www.jst.go.jp/sip/k08.html>



レジリエントな
防災・減災機能の
強化



国立研究開発法人土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ 公開実験担当 宛

F A X : 0 2 9 - 8 7 9 - 6 7 3 9

e-mail caesar@pwri.go.jp

申し込み用紙

1. 御社名 : _____

2. ご所属 : _____

3. お名前 : _____

4. 人 数 : _____ 人

5. ご連絡先 : 電話番号 _____
e-mail _____